

ニュース

学会等の開催 (10～3月)

生き物文化誌学会第7回例会

10月4日に「蜂と養蜂の文化誌」をテーマに標記の会が静岡市の日本平ホテルを会場に開催された。この学会の例会は、学会の趣旨に沿って、開催地色を出した固有のテーマで開催され続けている。この日は雨天にもかかわらず90名余りの参加で、大変盛会であった。当施設は講演内容など企画面を担当し、松香光夫教授も講演を行った。次号に会開催の報告と全4題の講演を掲載の予定。

社会性昆虫コンソーシアム設立会議

10月30日に東京大学において「社会性昆虫コンソーシアム」の設立会議が、ミツバチだけでなく、広く社会性昆虫に関わる研究者の有機的集合体としての団体設立を目指して開催された。活動内容などは下記 web サイトで。
<http://www.honeybee.umin.jp/>

第49回日本応用動物昆虫学会大会

3月24～46日に玉川大学で標記の大会が開催された。参加者約1000名の大会で、ミツバチやマルハナバチなどの関連で数題の講演や関連シンポジウムも行われた。玉川大学がホストということで、当施設も準備段階から全面的に協力し、特に「ミツバチ科学」編集スキルを講演要旨集編集製作などに応用した。

「ミツバチ科学」刊行の遅れのお詫び

ご購入いただいている会員の方には大変ご迷惑をおかけし、また多くの方に心配もしていただきましたが、ミツバチ科学26巻1号は予定を大幅に遅れての刊行となりました。すでに購読料をお支払いいただいているタイミングでしたので、「送金上の事故では?」、「入金登録の漏れでは?」、「雑誌送付上の事故では?」とのお問い合わせを数多くいただきました。この点は大変申し訳ありませんでした。

これから少しずつ刊行時期を早めて、年内にも従来の刊行ペースに近づけて参りますが、本年中は刊行が不定期になりますこととお詫びいたします。

また、次号より、配送が外部委託となる予定です。住所変更等は変わらずミツバチ科学研究施設でお受けしますので、これまで通り下記住所あてに、郵便、FAXあるいは電子メールなど記録の残りやすい方法でお知らせ下さい。メール便での配送となりますので、転送での配送はありません。転居等で住所が変更になっている場合は未着となりますので、早めにご連絡下さい。

購読に関するお問い合わせ先：

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1

玉川大学ミツバチ科学研究施設

FAX：0421-739-8685

Email：HSRC@agr.tamagawa.ac.jp

担当：門田（もんでん）、榎本（えのもと）、中村

編集後記 毎号の遅れの蓄積と慢性的な原稿不足から、ついに半年以上の遅延という事態を招いてしまった。まだ楽観できる事態にはないが、特集企画などによって魅力的な誌面をお届けできるよう努力したい。

さて、お待たせした本号では、1月のミツバチ科学研究会での発表から一題と、昨年で完了した松浦誠先生の記事を受けて、ミツバチの生息状況や住民とのかかわりについて伊丹と枚方の事例を報告いただいた。今後さらに各地からこの種の報告が寄せられることが期待される。ギリシャの Ifantidis 博士は久しぶりの登場で、スズメバチなど複数の害敵に有効なトラップを紹介。アイデアをうまく生かされるとよいだろう。インドの Gulati 博士からは、ワタ栽培における野生ミツバチの有効性と農薬の影響についてそれぞれ実験報告を、ドイツ養蜂協会の Nowotnick 氏からはルシュカの遠心分離器誕生140周年記念記事をいただいた。表紙は町田周辺でも見られるようになったアルファルファタコゾウムシ。かなり全国に広がっている様子だが、今後発見報告などもお寄せいただければと思う（関連記事を p. 35 に掲載した）。（純）